

亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会 第1回小委員会（文化ホール） 要旨

日 時：令和4年7月28日（木） 午前9時30分～11時30分

場 所：亀岡市文化資料館3階 会議室

出席者：松井利夫委員・河原林茂美委員・栗山初美委員・藤本邦雄委員・蔭山陽太委員・
松井哲哉委員

欠席者：なし

委員意見等一覧

（1）施設の事例紹介

（A委員）

①長岡リリックホール（新潟県長岡市）

- ・音楽ホールと劇場シアター、2つの専門性の高いホールが一つの建物に設置されている。
- ・公益財団法人長岡市芸術文化振興財団が施設管理運営を行っている。
- ・規模は、コンサートホールで700席、シアター劇場は450席。
- ・大きさ性能が異なるスタジオが10室あり、市民からの声を反映させた設備等になっている。
- ・2階部分のホワイエは、イベントがないときは、自由に使える空間になっている。
- ・文化ホールの建替を検討する際に、公共ホールという視点から、興行用ではなく、市民も使いやすい規模の施設となっている。
- ・多目的というよりも専門性を追求した施設となっている。
- ・稼働率は、ホール7割、スタジオは9割以上となっている。
- ・リリックホール、コンベンション施設、近代美術館の3施設が公園内にあるので、ギャラリーのような複合機能を有しているが専門性の高さを見るとギャラリーとは違った施設である。

②八ヶ岳高原音楽堂（長野県南佐久郡）

- ・民間のホールであり、木で作られたホールならではの耳に心地よい柔らかかで自然な響きを届けられるホールとなっている。
- ・株式会社八ヶ岳高原ロッジが管理運営を行っており、音楽堂以外に別荘地やホテルの事業を行っているので、宿泊も可能な一体的な施設運営を行っている。
- ・規模は、六角形の木でできたホールで、座席数は250席。
- ・田舎の自然の中にあることが強みで、有名な音楽家も使用している実績がある。

（B委員）

①シアターE9 キョウト（京都市南区）

- ・民間のホールで京都駅から歩いて約15分に立地している
- ・規模は小劇場が90席。
- ・京都市内の小劇場がオーナーの高齢化や施設の老朽化で一斉になくなったことがきっかけで、建設された。
- ・工場をリノベーションして劇場を作られており、費用は約2億円。
- ・資金は、寄付やクラウドファンディング、融資を受けることで調達した。

②城崎国際アートセンター（兵庫県豊岡市）

- ・温泉地にあった旧城崎大会議館をリニューアルして建設された施設。
- ・規模は、ホールで座席数は500席。演劇、ダンスなどで使える6つのスタジオを有している。
- ・特徴として、滞在機能を有した施設を備えており、アーティストに宿泊してもらい、作品の滞在制作をされているところである。
- ・滞在制作では、世界中から多くのアーティストを招いており、滞在中の作品制作のプロセスを市民に公開しているところも大きな特徴である。

(2) 意見交換内容

- ・ 少子高齢化、人口減少の課題を抱える中で、次世代に負担のかかることはすべきでない。
 - ・ その一方で、高齢者がいくつになっても活動できる施設や子どもたちがふるさとを誇りに思える文化活動の拠点は必要である。
 - ・ 短期間で考えるのではなく、長期間しっかり協議をして方向性を定めることが必要。
 - ・ 文化ホール、文化資料館の両方の機能がある総合施設がいいのではないか。
 - ・ 新しく施設を建設するよりも、既存のものをリノベーションするなどして活用した方がいいという意見も聞いている。
-
- ・ 亀岡市内の文化活動団体のことを考えると専門的な施設より複合型の施設がよい。
 - ・ 文化活動を行う団体が練習や発表する場がないので、早急に施設を作ってほしい。
 - ・ 専門的な音楽や舞台は、京都市内のできるので、そちらを活用すればいいと思う。
 - ・ 規模は亀岡市の人口減少のことを考えながら亀岡にふさわしい規模を検討する必要がある。
-
- ・ アートを仕事にしようと思う学生が京都市内ではお金がかかりすぎるので、亀岡に移住する人も実際にいる。彼らは、自分で仕事を作るので、会社や企業ではなく、ホールで行われるコンサートや演劇を鑑賞できる場所を求めている。
 - ・ 京都市内にある大きな規模は必要ないが亀岡市にも小さな規模のホールを作れば見に来る方は必ずいる。
 - ・ 亀岡で音楽を聞いたり学ぶ体験ができると、将来それに影響を受けた人材が育つ。どのような施設を作るのかという話は、亀岡をどのようなまちにしていこうかという議論と同じ。
-
- ・ 旧亀岡会館のような総合会館よりも専門性に特化した施設が必要だと思う。
 - ・ 亀岡市には、歴史的な文化が点在しているので、そういう場所に文化施設ができるのもいいことだと感じた。かめおか霧の芸術祭と連携した事業を進めることができるといいと思う。
 - ・ 大きなホールは使用料が高いので市民団体が使うのは、難しいと感じた。
 - ・ 本格的な音楽や舞台を子どもたちに見せることは非常に大切だと、5月にあったユース・ミーティングを傍聴して感じた。
-
- ・ 施設は建設時だけでなく、その後の運営に多大な資金が必要なのでその視点を持って検討する必要がある。特に専門的なホールでは、専門職を雇う必要があるので、その分人件費もかかってしまう。建設、運営以外にも、修繕や改修費用が多額にかかることも理解しておく必要がある。
 - ・ 使われなくなったホールを多く見てきて思うのは、公共ホールにおいて、行政で10年、20年スパンで計画運営していくことは限界があるので、そこに住む市民が主体となって次世代にも続いていく施設を作ることが大切であると思っている。
 - ・ 文化芸術を受け入れるまちを育てることが大切である。
-
- ・ 公共のホールはコンセプトを持って施設を作らないといけない
 - ・ 民間の施設はその場限りでも良いが、行政が設置する施設は、最終的にまちがどうなっていくべきなのか、新しい文化施設がどのようにまちに貢献できるのかというビジョンを持つことが重要である。